

杉並区産業振興計画 平成 31～33 年度（2019～2021 年度）に基づく令和元年度の主な取組状況等

目標	主な取組項目	取組実績	令和 2 年度の取組及び今後の方向性
目標 1 多様な産業と住宅都市が共に発展するまち	○ビジネスチャンスにつながる交流の場の拡大	○異業種交流会の実施 4 回（延べ 221 事業所参加）	○新型コロナウイルス感染症の長期化を見据え、国や都の動向を注視し更なる支援に取り組んでいく。
	○創業支援	○創業支援施設「阿佐谷キック・オフ/オフィス」（阿佐谷地域区民センター1 階）の運営 入居数 9 事業者（満室） ○創業セミナーの実施 4 回（延べ 61 人参加）	
	○中小企業資金融資あっせん制度の充実	○「創業支援資金」の利率の引き下げや都の信用保証料補助併用の見直しを実施した。 ・融資あっせん件数 521 件 ・金融機関貸付件数 427 件 ・利子補給金額 91,877 千円 ○「新型コロナウイルス感染症対策特例資金」新設（令和 2 年 3 月 12 日から）。資金融資相談に対しては、商工相談員（中小企業診断士）を増員し、相談体制を強化した。 ※資料 4 参照	○新型コロナウイルス感染症の影響により売り上げが減少したり、経営が困難となった中小企業事業者などに対しては、今後とも適時適正な支援を実施していく。
目標 2 区民生活を豊かにする産業に支えられ、安全で住みやすいまち	○商店街の防犯カメラ設置・装飾灯 LED 化等の促進	○地域住民が安心・安全に買い物ができる環境の整備支援として、商店街装飾灯等の LED 化及び防犯カメラの設置に関する助成を実施した。 ・装飾灯等 LED 化 131 本（累計 3,745 本） ・防犯カメラ設置 64 台（累計 598 台）	○商店街装飾灯等の LED 化の整備に当たっては、各商店街に一定の自己負担が必要なことなどもあり、区の計画よりも整備が若干遅れているが、引き続き取組を進めていく。
	○地域特性を踏まえた商店街の魅力づくりの促進 ○商店街からの提案事業への支援 ○外部人材を活用した商店街サポート事業の促進	○商店街のにぎわいにつながるイベント事業やまちづくりの視点から地域特性を踏まえて商店街が自ら企画する事業、商店街会員以外の企業・団体が商店街をサポートする事業等を支援した。 ・商店街チャレンジ戦略支援（イベント）事業助成 94 件 ・地域特性にあった商店街支援事業助成 1 件 ・チャレンジ商店街サポート事業助成 2 件	○新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、イベント事業への補助や若手事業者との懇談会等により新たな商店街活性化策の検討を進め、にぎわい回復の支援につなげていく。
	○地産地消マーケットの推進 ○農業体験事業の拡充	○農産物直販マップを作成。区内の直販所を区民に知ってもらうことにより、地産地消を推進した。 ○農に触れ合う機会として、区民農園 8 園、904 区画（団体貸 38 区画、世帯貸 866 区画）運営実施した。 ○上井草二丁目団体利用農園において、区内の保育園、小学校等、延べ 66 団体が収穫体験や学校給食栄養士による食材研究、農家向け新品種の推奨作物の検討などを実施した。	○特定生産緑地等の新たな制度周知と、区民が農にふれあう機会の創出や地産地消の推進などに継続的に取り組み、都市農地の保全につなげていく。
目標 3 食卓に彩りと心に潤いを与える産業で、やすらぎがあるまち	○防災兼用農業用井戸の整備促進	○防災兼用農業用井戸の設置に伴う助成 2 基（累計 21 基）	○農業と福祉の連携事業では、農園運営と平行して農園の PR や区民ボランティアの募集などを進めながら、区内福祉施設等の運営に寄与する取組の充実を図り、管理棟など必要な工事を進め令和 3 年 4 月の全面開園を目指す。
	○農業と福祉の連携	○杉並区農福連携事業基本計画（令和元年 6 月策定）に基づき、都市農地の保全と都市農地が持つ多面的な機能を発揮する新たな取組として、農業と福祉の連携事業を開始。区民ボランティアの協力を得ながら収穫体験や収穫物を福祉施設に提供するなど事業を推進した。 ※農福連携農園レイアウト図 別紙参照	

	○農業の維持・継続の支援	○区内農家（129戸）に対する営農活動支援費の助成 25件 ○農業体験農園（2園）の運営に対する助成や企業的農業経営集団が行う区内農業の発展に向けた活動に対する支援を実施した。 ・企業的農業経営者集団補助 5件	○「農産物直販マップ」や「杉並農人」を見て、初めて区内で農業が行われていることを知る区民も多い。今後も即売会やイベント等で積極的な周知を行い、区民の農業に対する理解の促進を図っていく。
目標4 安心して地元 で元気に働き 続けられるま ち	○相談者に寄り添った伴走型の支援 ○関係部署との連携による支援体制の強化	○就労支援センター（ウエルファーム杉並1階）において、就労関係機関や生活自立支援窓口との綿密な連携を行うことで、若者就労支援コーナーの新規登録者数やセミナー等の参加人数が目標を上回った。 〈若者就労支援コーナー〉 ・新規登録者数 740人 ・就労準備相談・心としごとの相談件数 延べ1,505件 ・就職決定件数 115件 〈ハローワークコーナー〉 ・職業相談件数 5,492件 ・就職決定件数 531件 〈ジョブトレーニングコーナー〉 ・利用登録者数 55人 ○就職相談・面接会をハローワークや中野区と合同で実施し、採用数は平成30年度を上回る成果を上げた。 ・実施回数 34回 延べ127事業所、参加者620人、123人採用決定	○近年改善傾向にあった雇用について、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による悪化が懸念されることから、引き続き、一人ひとりの状況に応じた就労支援を行っていく。
	○若者、女性、高齢者等の多様な働き手の支援	○就労支援セミナーの実施 138回（延べ1,445人参加） ○新規求人情報の開拓 958件	
目標5 魅力的でにぎ わいがあり、 また行ってみ たくなるまち	○来街者の誘致を図り「にぎわい」を生む情報発信	○区内中央線4駅周辺の魅力発信事業「中央線あるあるプロジェクト」(*)では、WEBやSNS等による多様な情報発信等を行った。 ・新たに配信したYouTube動画 9万回以上再生 ・ネパール人学校と連携したアニメワークショップの実施 参加者46人 (*)区、区内産業団体、企業、NPO等で構成される実行委員会により運営される都市観光事業。 ○区民ライターが区の魅力を紹介する「すぎなみ学倶楽部」では、防災対策やラグビー特集等、注目度が高いテーマを掲載した結果、サイト閲覧数767,743件（平成30年度比140,342件増）となった。	○新型コロナウイルス感染症の収束状況に応じて、近隣・近場での観光を楽しむマイクロツーリズムから、国内旅行の促進、さらに海外からの旅行者の受入れへと状況が変わっていくことが予想される。時機に応じた来街者の誘致を行い、区のにぎわい創出につなげられるよう
	○地域との連携・協働による「杉並魅力創出事業」の推進	○区内浴場組合と連携した銭湯のPRなど、いわゆる観光地とは異なる魅力を発信し、「モノ（消費）からコト（体験）」にシフトする外国人観光客をターゲットとした「杉並魅力創出事業」を実施した。	「中央線あるあるプロジェクト」や「すぎなみ学倶楽部」等での情報発信のほか、アニメーションミュージアムについては来館者数の増に向けたコンテンツ等の充実に取り組んでいく。
	○アニメーションミュージアムを活用したにぎわい創出の推進	○アニメーションミュージアム（杉並会館2・3階）では、体験型展示の常設化や新たな翻訳機の導入により、施設の魅力を高めた。 ○「中野・杉並・豊島アニメ等地域ブランディング事業」(*)によるイベントの開催や広域的な情報発信を実施した。 (*)中野区・杉並区・豊島区のほか、東京商工会議所の各支部を構成委員とする実行委員会で、アニメ制作会社やサブカルチャー・マンガ文化が集積する各区の地域特性を発信する、地域のにぎわいや活気を生むブランディング強化事業。	